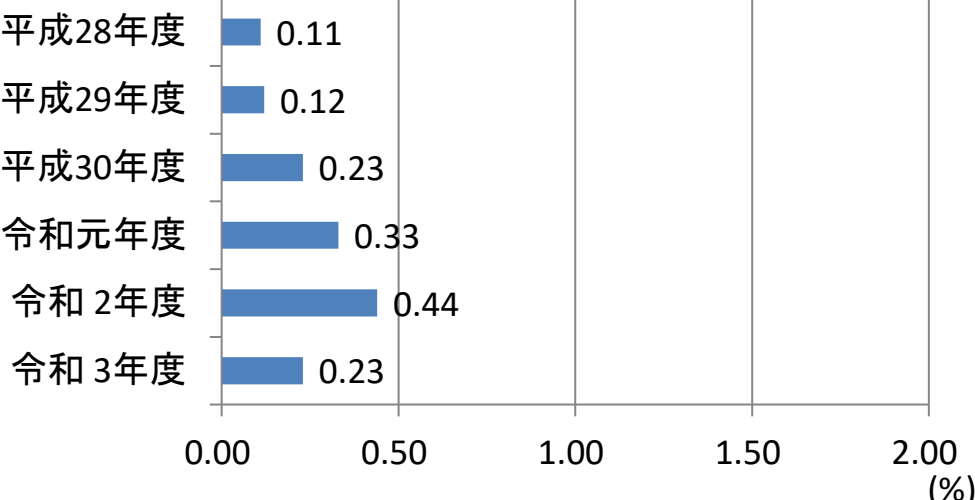


30 手術あり患者の肺塞栓症の発生率

解説	肺塞栓症は血栓(血のかたまり)が肺動脈に詰まり,呼吸困難や胸痛を引き起こす疾患であり,程度によっては死に至る場合もあります。長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多いです。エコミークラス症候群も肺塞栓症の一種ですが,入院中においては適切な診療により,かなりの部分が予防可能です。														
実績	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>発生率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>0.11</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>0.12</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>0.33</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>0.23</td> </tr> </tbody> </table>	年度	発生率 (%)	平成28年度	0.11	平成29年度	0.12	平成30年度	0.23	令和元年度	0.33	令和2年度	0.44	令和3年度	0.23
年度	発生率 (%)														
平成28年度	0.11														
平成29年度	0.12														
平成30年度	0.23														
令和元年度	0.33														
令和2年度	0.44														
令和3年度	0.23														
定義	DPCデータを元に算出した,特定の手術を実施した患者に対する「肺血栓塞栓症」の発生割合を算出するものです。														